

## TTP の疫学調査と Minds 式ガイドラインの作成

研究分担者：宮川義隆 埼玉医科大学血液内科 教授

### 研究要旨

衛生行政報告例によると TTP の受給者証の取得者は約 220 名であった。難病対策課に臨床個人調査票のデータ提供を依頼し、2018 年と 2019 年の 2 年間について調査した。2 年間の新規患者数は合計 132 名、女性が 59%、発症時の平均年齢が 60 歳であった。Minds 形式による TTP 診療の参照ガイドを作成するあたり、クリニカルクエスチョンは抗 CD20 モノクローナル抗体リツキシマブの使い方を選び、医学文献データベースを用いた調査により推奨度を決定し、TTP 診療の参照ガイド 2023 を作成した。

#### A. 研究目的

TTP の疫学調査と Mind 形式に基づく診療の参照ガイドを作成する。

#### B. 研究方法

難病対策課から臨床個人調査票のデータを取得し、統計解析を行う。医学文献データベース Pubmed を用い、抗体医薬リツキシマブに関する文献を集める。Minds 形式に基づく診療の参照ガイドを作成する。

#### C. 研究結果

2018 年と 2019 年の 2 年間の TTP 患者数は約 220 名、女性 59%、年齢 60 歳（発症時）。主な治療として、血漿交換 89%、血漿輸注 43%、副腎皮質ステロイド 93%、リツキシマブ 25%であった。Pubmed に登録されている過去 10 年間の論文から英語論文 335 件を選択した。

#### D. 考察

国内の TTP 発症率は欧米と同等と考え

らえる。また、海外と同様な標準的治療が適切に行われていることを確認した。

#### E. 結論

Mind 形式に基づく TTP 診療の参照ガイド 2023 を作成し、日本血液学会誌に採択された。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

別紙

##### 2. 学会発表

別紙

##### 3. 一般向け講演会

なし

#### H. 知的財産権の出現・登録状況

1. 特許取得：なし

2. 実用新案登録：なし

3. その他：なし